香取遺産

vol.200 浄行さま

浄国寺　佐原イ1973

▲2体の浄行菩薩像

▲浄国寺　浄行殿

佐原地域の寺宿に所在する長妙山浄国寺は、日蓮宗の寺院で、永禄年間（1558～1570）に佐原を開拓した永沢家の始祖、永沢伊豆守俊元（法号日施）の開山と伝えられています。

境内の東側を見ると、そこに煉瓦造瓦葺の小さなお堂があります。屋根は入母屋造りの瓦葺きで、壁はれんがを積んでできています。れんがは、小口（短辺）の段と長手（長辺）の段を交互に積み重ねるイギリス積みで積まれています。お堂の正面には「浄行殿」と書かれた扁額が掲げられ、中には2体の菩薩像が前後に安置されています。

浄行殿は、天保2（1831）年に初代箕輪由兵衛の妻智加と二代目由兵衛の妻武良によって建てられ、その後、明治20年に類焼し、同23年に四代目由兵衛と善吉によって再建されたと伝えています。箕輪由兵衛家は、近世の佐原における有力商人です。

2体の菩薩像は穢れを清めてくれる浄行菩薩で、親しみを込めて「浄行さま」と呼ばれています。後ろの像は当初のもので、火災により壊れてしまったものを修復して安置されています。ご住職のお話によると、浄行菩薩は妙法蓮華経に示された浄行・無辺行・上行・安立行と呼ばれる四菩薩の一人で、人間の煩悩を洗い清める菩薩とされ、転じてけがや病気の苦痛を洗い清めてくれるとして信仰を集めたそうです。

参詣の人々は病気平癒を祈り、像を洗い清めていきます。人々の思いを一身に受けたその表面はつるつるです。願いがかなった時には、新しいタワシを奉納するのが習わしとなっています。

問 生涯学習課 ☎(50)1224